

地域農林経済学会ニューズレター

The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

2023. 3.25 第 34 号

編集・発行 地域農林経済学会 <http://a-rafe.org/2/0>

【学会事務局】〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社学会部内

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 E-mail: arfe@nacos.com

目次

1. 『農林業問題研究』の発刊案内	2
Publication of the Journal of Rural Problems	
1-1 第 59 巻・第 1 号 (第 229 号) 目次	
Table of Contents for Volume 59 Issue 1 (Issue 229)	
2. 学会活動報告	3
Report on Academic Conference Activities	
3. 中国支部大会報告	5
Report on Chugoku (Western Honshu) Branch Conference	
4. 学会賞について	6
Academic Conference Award	
4-1 学会賞・学会誌賞選考委員会報告	
Report from the Award Selection Committee	
4-2 学会賞等の推薦要領	
Nomination Guidelines for Academic Awards, etc.	
5. 第 7 回国際ワークショップ報告要旨の募集のお知らせ	9
Call for Abstracts for the 7th International Workshop	
6. 長期学生会員について	12
Long-term student member	

1. 『農林業問題研究』 発刊の案内 Publication of the Journal of Rural Problems
1-1 第 59 巻・第 1 号 (第 229 号) 目次 Table of Contents for Volume 59 Issue 1 (Issue 229)

<会長講演>

メゾ：都市と農村，法と経済

浅見 淳之

<座長解題・総合討論>Chairman's speech

農林業問題研究への多様な接近—都市と農村における混在化した地域資源の持続的利用—

Diverse Approaches to the Study of Agricultural and Forestry Issues: The Sustainable Use of Local Resources in Rural-Urban Fringe; Chairperson's Address and Summary

藤本 高志

<大会シンポジウム>Symposium

都市化社会における農業経営の戦略と組織—水田経営のステークホルダー対応に着目して—

Strategic Management and Organization of Farm Business in the Urbanized Society: On Stakeholder Management of the Rice Farm Business

八木 洋憲

井戸端の再生に向けた公共水場の機能と所有意識—長野県松本市における地域の水資源の発掘と利用—

A Study of the Function and Ownership Consciousness of Public Wells for Rebuilding Relationships at Edge of Wells: Discovery and Utilization of Local Water Resources in Matsumoto City, Nagano Prefecture

野田 岳仁

<国際ミニシンポジウム座長解題>2022 International Mini-Symposium

Transformation towards Sustainable Agriculture, Rural Communities, and Ecosystems: Reviewing Global Trends and Local Realities Based on Interdisciplinary Approaches: Part 2

Keshav Lall Maharjan, Tadayoshi Masuda, Kae Sekine

<国際ミニシンポジウム>2022 International Mini-Symposium

Innovations for Sustainable Food Systems: Focusing on Agroecology and Participatory Guarantee Systems

Allison Marie Loconto

Strengthening Multifunctional Agriculture through Digitalisation: Insights from Europe and Japan

Matteo Metta

Building Resilience for Food and Nutrition Security in Africa: Focusing on Small-Scale

Chieko Umetsu, Ken Miura

編集後記 Editor's Postscript

本号から編集委員会が第 24 期に替わりました。船出して間がないことから、至らないところがあるかもしれませんが、力を尽くします。会員皆様のご理解とご支援をお願いしたいと思います。(N.A.)

2. 学会活動報告 Report on Academic Conference Activities

第72回地域農林経済学会大会は、龍谷大学にて、2022年10月22日（土）～10月23日（日）の2日間にわたり開催された（大会シンポジウムと国際ミニシンポジウムについては、龍谷大学の会場とオンライン（Zoom Webinarによる配信）のハイブリッドにて行われた）。

※大会の詳細については、学会ホームページに掲載。

<大会シンポジウム>

第1日目 10月22日（土）13:00～17:15

「農林業問題研究への多様な接近—地域資源の発掘と持続的利用—：都市と農村における混在化した地域資源に注目して」

1. 会長講演：浅見淳之（京都大学）
2. 座長解題：藤本高志（大阪経済大学）
3. 話題提供1：秋田典子（千葉大学）
「都市における農的空間の役割—近代都市の理想郷から続く「食住近接」—」
4. 話題提供2：八木洋憲（東京大学）
「都市化社会における農業経営の戦略と組織—水田経営のステークホルダー対応に着目して—」
5. 話題提供3：野田岳仁（法政大学）
「「公共水場」をめぐる地域資源の発掘と持続的利用—環境社会学の視点から—」
6. コメンテーター
伊藤淳史（京都大学）、牛尾洋也（龍谷大学）
7. 総合討論

<個別報告>

第1日目 10月22日（土）9:30～11:30（個別報告優秀賞対象報告を含む）

第2日目 10月23日（日）9:30～13:00

詳細省略

<国際ミニシンポジウム>

第2日目 10月23日（日）14:00～16:00

（主催：地域農林経済学会 後援：日本有機農業学会）

Transformation towards Sustainable Agriculture, Rural Communities, and Ecosystems: Reviewing Global Trends and Local Realities based on Inter-disciplinary Approaches

Chair: Keshav Lall Maharjan (Hiroshima University)

Moderator: Tadayoshi Masuda (Kindai University),

Kae Sekine (Aichi Gakuin University)

Presentation 1: Allison Marie Loconto (INRAE)

“Innovations for Sustainable Food Systems: Focusing on Agroecology and Participatory Guarantee Systems”

Presentation 2: Matteo Metta

(University of Pisa/University of Gent)

“Rural Perspectives on Digital Agriculture: The Case of On-Farm Diversification”

Presentation 3: Chieko Umetsu (Kyoto University) (Presenter), Ken Miura (Kyoto University)

“Building Resilience for Food and Nutrition Security in Africa: Focusing on Small-Scale Farmers”

Commentators: Joji Muramoto (University of California), Teruaki Nanseki (Kyushu University), Steven McGreevy (University of Twente)

Discussion

<総会>

2022年10月22日（土）17:15～18:15に、中村貴子氏（京都府立大学）を議長として、総会が開かれた。以下に、審議内容の資料の一部を掲載する。

付1. 地域農林経済学会 2021 年度会計報告
(当期剰余金)

科目	2021 年度 予算額 (1)	2021 年度 決算額 (2)	差引額 (2)-(1)
当期収入	4,216,500	3,560,046	▲ 656,454
当期支出	4,421,620	3,335,135	▲ 1,086,485
当期差引	▲ 205,120	224,911	430,031

付2. 支部会・研究会について
<2021 年度活動報告>

2021 年度国際ワークショップ

開催日：2021 年 7 月 11 日 (日)

場 所：オンライン開催

内 容：英語による報告 9 本

近畿支部 2021 年度大会

開催日：2022 年 1 月 28 日 (金)

場 所：摂南大学農学部 8 号館 8210 教室 (大阪府) (対面・オンライン併用)

テーマ：「新時代の地域共創と都市農業の役割～こち良いオーガニック社会の実現に向けて～」

中国支部 2021 年度大会

開催日：2021 年 10 月 27 日 (水)

場 所：平田観光農園 (広島県三次市上田町 1740-3), 川西郷の駅いつわの里 (広島県三次市三若町 2396)

テーマ：「農山村地域における 6 次産業化と地域生活交流拠点の形成・維持について」

四国支部 2021 年度大会

開催日：2022 年 1 月 22 日 (土)

場 所：香川大学農学部 A501 教室 (香川県) (対面・オンライン併用)

テーマ：「香川県におけるスマート農業技術の開発と普及に関する展望」

<2022 年度事業中間報告>

2022 年度国際ワークショップ

開催日：2022 年 6 月 26 日 (日)

場 所：オンライン開催

内 容：英語による報告 9 本

近畿支部 2022 年度大会

開催日：2022 年 9 月 2 日 (金)

場 所：神戸大学農学部 B 棟 101 号室

内 容：日本語による報告 10 本、英語による報告 1 本

3. 中国支部大会報告

Report on Chugoku (Western Honshu) Branch Conference

2022年度の地域農林経済学会中国支部大会は、岡山大学文明動態学研究所およびJST「共創の場形成支援プログラム」との共催により、2023年1月18日(水)15:00~17:00に行われた。テーマは「定着型産業の育成と地域社会の持続性の課題—農業を事例として—」である。

本大会では2件の報告がなされた。第1報告のテーマは、「農業を活用した地域活性化の可能性—交流人口の増加に向けて—」で、駄田井久氏(岡山大学)が報告した。第1報告の目的は、地域資源の維持・管理のための作業(例:草刈り、泥上げ)に対する都市住民の参加可能性を検討することである。棚田での都市農村交流を行う集落の代表者と参加者への聞き取り調査結果、および岡山県内の18歳以上の男女を対象としたWebアンケート調査が実施された。その結果、農村住民と都市住民の間でこれらの作業への参加の価値認識にギャップが存在する可能性と、1割弱の回答者が無報酬でも参加意向を示していることが指摘された。

第2報告は筆者が行った。テーマは「企業との連携によるコミュニティ・エネルギーの形成—鳥取県内の小水力発電を事例に—」であり、住民や農協が事業者となっている小水力発電所の近年の動向を紹介した。また、事例では、地域外の企業との連携によって小水力発電所の設備を更新しつつ地域への利益

還元を維持できていたことから、農村主導型の再エネ事業を存続させるためには地域外の事業者との関係構築が重要であることが指摘された。

以上の報告の後に、まず、岡山県農村振興課および耕地課から報告内容に関連する岡山県の施策の概要説明が行われた。次に、津守貴之氏(岡山大学)をファシリテーターに迎えて、質疑応答と討論が行われた。質疑応答では、北川博文氏(岡山大学)が研究者の視点から、岡山県内で農業体験事業を営んでいる廣瀬佑治氏(NPO法人らんたん)が現場の視点からコメントを行った。また、徐滋馨氏(淡江大学日本政経研究所)からは台湾の現状が紹介され、今後、日台比較研究へ発展していくことへの期待が述べられた。

続いて討論では、地域資源の維持・管理のための作業に報酬がなくとも参加したいと答えた都市住民が一定数存在していることに注目が集まった。一方で、農村住民はこれらの作業に価値を見出していないことも指摘された。すなわち、これらの作業が農村側において地域資源として認識されていないが故に、十分な活用がなされていない可能性が高いのである。このことから、潜在化している農村の資源を「地域資源」化すること、および住民の視点の重要性が確認された。

(岡山大学 本田恭子)

4. 学会賞について Academic Conference Award

4-1 学会賞・学会誌賞選考委員会報告

Report from the Award Selection Committee

1. 選考経過

(1) 学会賞の選考

①学会賞の公募

2022 年度学会賞、学会奨励賞、学会特別賞の募集を、ニュースレターや HP 上で会員に告知した(5 月 31 日締め切り)。期日までに、学会賞特別賞 1 件の応募があった。学会賞及び奨励賞については、応募は得られなかった。

②選考のプロセス

推薦のあった学会特別賞候補 1 件について、事務局から、推薦書と書籍を各委員に送付し、事前に検討することとした。6 月 22 日に、オンラインにおいて選考委員会第 1 回を開催し、推薦・応募書類及び会員資格等を確認し、応募のあった 1 件を選考対象とすることとした。

8 月 4 日に、オンラインにおいて選考委員会第 2 回を開催し、地域農林経済学会特別賞表彰規程に照らして慎重に審議した結果、1 件を学会特別賞候補とすることを決定した。なお、審議においては、選考委員の個人評価の報告の後、総合的な観点から審議を行った。あわせて、学会特別賞の対象となる業績や評価の方針についても意見交換を行った。学会特別賞等推薦促進の観点からも、優れた点を積極的に評価し、既往業績の集大成として位置づけられる業績についても、学会特別賞候補として理事会へ報告することとした。

(2) 学会誌賞の選考

①選考のプロセス

『農林業問題研究』56 巻 1 号から 57 巻 4 号に掲載された 4 編の研究論文のうち、昨年度に学会誌賞を授賞した 1 編を除く 3 編について、学会誌編集委員長及び常任編集委員、担当副会長を選考委員とし、学会誌賞候補論文の選考を行った。

8 月 31 日にオンラインによる選考委員会を開催し、地域農林経済学会賞表彰規程に照らして、慎重に審議した結果、1 件を学会誌賞候補とすることを決定した。なお、審議においては、事前に行った選考委員による 4 段階評価の平均点を参考に選考を行った。あわせて、学会誌賞候補論文の選考方針や投稿促進方策についても意見交換を行った。学会誌への投稿促進の観点からも、優れた点を積極的に評価し、一定の水準に達していると判断される業績については、学会誌賞候補として理事会へ報告することとした。

2. 選考結果と受賞理由

(1) 学会賞 推薦なし。

(2) 学会奨励賞 推薦なし。

(3) 学会特別賞

古塚秀夫・高田理『現代農業簿記会計概論』農林統計出版、2021 年

本書は、農業簿記会計に関する代表的な教科書であるが、近年の農業経営を取り巻く環境変化や会計基準の改定に対応した内容となっており、研究書としての性格も有している。本章は 16 章、練習問題、索引等から構成されている。このうち第 1 章から第 6 章、第 10 章、第 12 章は主に簿記に関する章である。第 7 章から第 9 章は主に会計に関する章であり、その他の章はキャッシュフロー計算書、設備投資の経済分析、税務会計とパソコン等、現代的な内容に焦点を当てている。

評価される主な点は以下の通りである。

第一に、農業簿記会計に関する教科書としての体系性および完成度が評価される。本書は、『現代農業簿記会計』2009 年、『改訂現代農業簿記会計』2012 年を加筆修正したものであり、練習問題や索引も充実している。国際会計基準への対応や税務会計・青色申告と農業簿記会計の関係についても述べられてお

り、農業簿記会計の標準的な教科書・参考書・啓蒙書として、大学・短大での授業、都道府県の改良普及員やJAの営農指導員、並びに農業経営者に使用されてきた実績は高く評価できる。

第二に、農業簿記会計に関する研究書としての内容も評価される。本書は、農業簿記会計に関する専門書であるが、農業分野以外の簿記・会計処理についても有益な情報を提供している。経済分析における重要なキーワード、政府統計を利用する上で不可欠な用語、税務会計とパソコン簿記等についても、総合的な考察・解説が加えられており、研究書としての内容と教科書・啓蒙書としての内容が有機的に関連付けられている点も高く評価できる。

以上から、教科書・啓蒙書としての体系性および完成度に加えて研究書としての内容も有している点が高く評価でき、本書を学会特別賞の候補とすることとした。なお、選考においては、本書が基づいている著者らの2冊の書籍を含む集大成として本書を位置づけて評価を行ったことを付記する。

(4) 学会誌賞

岡村伊織、藤栄剛「圃場分散と農業集落の地理的・社会的条件—空間計量経済分析によるアプローチ—」2021年9月、57巻3号、95-106頁。

本論文は、圃場分散と農業集落の地理的・社会的条件の関係を明らかにすることを目的とし、圃場の地理情報を用いた圃場分散度の空間的自己相関の計測を行い、それを考慮した計量経済学手法(SLM: spatial lag model やOLS: ordinary least squares)を適用して圃場分散と農業集落の地理的・社会的条件の関係を解明している。以下の点で高く評価できる。

第一に、圃場の地理情報を用いて圃場分散度を推計する手法を提案し、その有効性を示している。さらに、圃場分散度の空間的自己

相関を計測し、空間的自己相関があることを明らかにしている。

第二に、OLSよりも、圃場分散度の空間的自己相関を考慮したSLMの方が統計的に妥当であることを明らかにしている。さらに、OLSとSLMの推定結果を比較し、社会的条件よりも、地理的条件の方が、圃場分散度に関与する重要な要素であることを明らかにしている。

以上のように、本論文は、データの特徴を最大限に活かして、空間的自己相関を考慮した計量分析という新しい方法論を提案し、圃場分散という農業経営・政策にも重要なテーマに定量的にアプローチしており、学会誌賞の候補とすることにした。ただし、今後、以下の諸点の解明が期待される。対象地域では、何故、地理的条件の方が社会的条件よりも圃場分散度に強く影響を及ぼすのか。どのような地域であれば、社会的条件が圃場分散度に強く影響を及ぼすのか。

3. 総評と留意事項

学会賞については、推薦が少ない状況が継続しており、引き続き積極的な推薦を期待したい。学会誌賞については、対象となる論文の数が少なく、積極的な学会誌への投稿の奨励が求められる。また、報告論文から原著論文への推薦をさらに進めるなどより多面的な取組が求められる。なお、両選考委員会において、受賞済みの研究業績を含む新たな研究業績を新たな表彰の対象とすることについて検討を行った。その結果、既存の業績を含んでいても、さらに発展・体系化するなど新たな研究業績であると認められれば、新たな表彰の対象となり得るとの結論に至った。

南石晃明

(学会賞・学会誌賞選考委員会委員長)

4-2 学会賞等の推薦要領

Nomination Guidelines for Academic Awards, etc.

2023年度の学会賞・学会奨励賞および特別賞の候補者の推薦の受け付けを行っています。受賞対象に関しまして以下の点にご留意頂き、幅広く積極的なご推薦お願い申し上げます。

①すでに別の学会で受賞されている研究業績に対しましても、本学会としての独自の観点から高く評価できる場合は、受賞の対象といたします。

②地域農林経済学会特別賞の規程第3条における「会員が主宰する研究グループが公刊した研究書」とは、主宰者を中心に体系化して取りまとめた研究書を指します。

(1) 学会賞・学会奨励賞授賞候補者の推薦について

1. 会員は推薦する受賞候補者の(i)著書、論文または調査研究報告書を**5部**、(ii)地域農林経済学会賞候補者推薦状を**7部**、学会事務局中西印刷株式会社内地域農林経済学会賞選考委員会宛に提出する。ただし、これらは審査後も返却しない。推薦者は会員1名以上(自薦を含む)によるものとする。

2. 提出締切は**2023年5月31日**(必着)とする。

3. 選考の対象とする研究業績は**2021年4月～2023年3月末日**までに刊行されたものとする。

4. 奨励賞授賞候補者は当該業績刊行時点で**40歳未満**のものとする。

5. 地域農林経済学会賞授賞候補者推薦状用紙は、本学会HPよりダウンロードするか、もしくは学会事務局中西印刷株式会社内地域農林経済学会賞選考委員会宛に申し込むこととする。

(2) 特別賞授賞候補者の推薦について

1. 会員は推薦する受賞候補業績の(i)著書、論文、その他を**5部**、(ii)地域農林経済学会特別賞候補業績推薦状を**7部**、学会事務局中西印刷株式会社内地域農林経済学会賞選考委員会宛に提出する。ただし、これらは審査後も返却しない。推薦者は会員1名以上(自薦を除く)によるものとする。

2. 提出締切は**2023年5月31日**(必着)とする。

3. 選考の対象とする研究業績は**2021年4月～2023年3月末日**までに刊行されたものとする。

4. 地域農林経済特別賞授賞候補者推薦状用紙は、本学会HPよりダウンロードするか、もしくは学会事務局中西印刷株式会社内地域農林経済学会賞選考委員会宛に申し込むこととする。

5. 第7回国際ワークショップ報告要旨募集のお知らせ

Call for Abstracts for the 7th International Workshop

The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics The 7th International Workshop Call for Applications**Date: Saturday July 15, 2023****Venue: Ritsumeikan University****(Hybrid with Zoom)****Language: English****Participation fee: Free****Deadline for application: Friday June 2, 2023**

We are pleased to invite the members of the Association for Regional Agricultural and Forestry Economics (ARAFE) to present your latest studies at the 7th International Workshop to be held on Saturday July 15, 2023 at Ritsumeikan University. The objective of this workshop is to encourage our members, from graduate students to established researchers, to write, present and discuss on their work in English, which will be an essential step towards other international conferences and internationalization of our association. If there are some non-members of the Association who are interested in presenting their papers nearby you, please encourage them to do so with your recommendation.

The papers for this workshop are expected to be studies of regional agricultural and forestry economics, management, sociology, history, and other related social sciences. Wide disciplines and approaches, econometrics and non-econometrics, quantitative and qualitative approaches, theoretical and experimental analyses with case studies, field surveys, are all welcome.

We intend to organize the workshop as a hybrid of online (Zoom) and in-person. The venue will be

Ritsumeikan University (campus to be confirmed). For details, please refer to the announcement on the ARAFE website. Those who wish to present their work are expected to fill in the necessary items to the Google Form as linked below by Friday June 2, 2023:

<https://forms.gle/X2S9iP7RonKH84qA6>

- Family Name, Given Name 氏名
- Affiliation 所属
- Title 報告タイトル
- Contact Tel 連絡先電話番号
- Contact Email 連絡先 E-mail
- ARAFE Member 会員 / Non-member 非会員
- If you are non-member, write the member's name who recommend you 非会員の場合には推薦者氏名
- Abstract 要旨 (300-500 words 単語)

Note. Please strictly adhere to the word limit. 単語数範囲厳守下さい。

The selected presenters must submit their handouts, e.g., PowerPoint Slides and short papers of 3,000-5,000 words/paper by Wednesday July 5, 2023. To have better discussions, the handouts will be circulated among participants on the day of the workshop while the short papers will be shared with the chairs and commentators beforehand. The presentation will be of 20 minutes and discussion of 15 minutes will follow. Presenters should prepare digital presentation materials (e.g. Power Point slides) for the hybrid online and in-person presentation. The presented papers are welcomed to be submitted to the Journal of Rural Problems for review or revised for a presentation in the annual conference of the

Association. The first author and the corresponding author must be a member of the Association to submit a paper for review of the Journal or present in the annual conference. The author(s) whose paper(s) presented in the ARAFE International Workshop are being published or accepted for publication in Journal of Rural Problems published by the ARAFE or international journals with impact factor indexed in Web of Science shall be awarded a subsidy of the ARAFE. Please contact Asso. Prof. TAKASHINO for more details.

If you have any questions, please contact us.

We are looking forward to your contributions!

Zoom Meeting

<https://ritsumei-ac-jp.zoom.us/j/91550139382?pwd=VHJ0cnJyRUZHazQxc3VpY29SNlljUT09>
Meeting ID: 915 5013 9382
Passcode: 150572

Executive Board Members for
Internationalization of the Association for
Regional Agricultural and Forestry Economics
Prof. SEKINE Kae (Aichi Gakuin University)
Asso. Prof. MASUDA Tadayoshi (Kinki University)
Asso. Prof. TAKASHINO Nina (Ritsumeikan University)
Contact: ninat@fc.ritsumei.ac.jp

第7回国際ワークショップ報告要旨の募集のお知らせ

開催日：2023年7月15日(土)

会場：立命館大学（Zoom とのハイブリッド開催） 使用言語：英語

報告要旨の締め切り：2023年6月2日(金)

参加費：無料

平素より本学会の活動にご協力頂き、ありがとうございます。

この度、地域農林経済学会は第7回国際ワークショップを下記の要領で2023年7月15日(土)に、立命館大学にて開催することになりました。本ワークショップは、大学院生から経験豊かな研究者までの会員に研究成果を英語で執筆、報告、議論する場を提供し、国際学会における報告に向けたステップアップや本学会の国際化に資する目的で実施しています。ぜひこの機会に、会員の皆様の研究成果を発表ください。また、もし皆様の近くに本学会の非会員で報告を希望される方がいましたら、非会員でも報告できますので、ぜひご推薦ください。

本ワークショップでは、地域農林経済学、経営学、社会学、歴史学、および関連する社会科学の研究報告を募集しています。また、計量・非計量手法、量的・質的アプローチ、理論的分析、ケーススタディやフィールド調査にもとづく実証的分析などの幅広い研究報告を対象としています。

今年度のワークショップはオンラインと対面のハイブリッド開催となります。会場は立命館大学（キャンパス未確定）を予定しています。詳細については学会ウェブサイトをご確認ください。報告を希望される方は、2023年6月2日(金)までに以下のリンクから Google Form に必要事項を入力下さい：

<https://forms.gle/X2S9iP7RonKH84qA6>

- Family Name, Given Name 氏名
- Affiliation 所属
- Title 報告タイトル
- Contact Tel 連絡先電話番号
- Contact Email 連絡先 E-mail
- ARAFE Member 会員 / Non-member 非会員
- If you are non-member, write the member's name who recommend you 非会員の場合には推薦者氏名
- Abstract 要旨 (300-500 words 単語)

Note. Please strictly adhere to the word limit. 単語数範囲厳守下さい。

採用された報告者には、2023年7月5日(水)までにパワーポイント等の報告資料および予稿を送って頂きます。本ワークショップの議論を充実したものとするために、参加者には当日、報告資料を読めるように共有します。予稿(3,000-5,000単語/本)は、座長およびコメンテーターのみと事前に共有します。本ワークショップの1報告当たりの報告時間は20分、議論の時間は15分です。報告内容を元に本学会誌に投稿、または改訂の上で本学会の大会個別報告で報告頂ければ幸いです。学会誌への投稿または大会個別報告での報告の際には、筆頭著者および責任著者が本学

会の会員である必要があります。地域農林経済学会の国際ワークショップで発表した内容を基にした研究論文を、本学会誌『農林業問題研究』または Web of Science のインパクトファクター付き英文学術誌に英語論文として投稿し、掲載決定した場合、執筆者に対して地域農林経済学会から補助金を支給します。詳しくは高篠までお問い合わせください。

本ワークショップに関するご質問等がございましたら、メールにてお問い合わせください。以上、よろしくお願ひします。

Zoom URL

Zoom Meeting

<https://ritsumei-ac->

[jp.zoom.us/j/91550139382?pwd=VHJ0cnJyRUZ](https://ritsumei-ac-jp.zoom.us/j/91550139382?pwd=VHJ0cnJyRUZHazQxc3VpY29SNlljUT09)

[HazQxc3VpY29SNlljUT09](https://ritsumei-ac-jp.zoom.us/j/91550139382?pwd=VHJ0cnJyRUZHazQxc3VpY29SNlljUT09)

Meeting ID: 915 5013 9382

Passcode: 150572

地域農林経済学会 国際化担当常務理事

関根 佳恵 教授 (愛知学院大学)

増田 忠義 准教授 (近畿大学)

高篠 仁奈 准教授 (立命館大学)

問い合わせ先 : ninat@fc.ritsumei.ac.jp

6. 長期学生会員について Long-Term Student Member

常任理事会において、長期学生会員の存在および対応の方法が議題として挙がりました。本来であるならば、卒業時に本人より卒業/就職の旨を自己申告頂き、会員種別を学生から普通会员に切り替える必要がございます。ですが、5年以上(最も長い会員で19年)学生会員のままの方が11名存在することがわかりました。

ご自身が学生会員に該当するか否か、今一度確認および対応を願えたらと思います。なお、大学院修了後、常勤的な職業に就いておられず、継続して学生会員として登録申請する際は、下記の連絡先に問い合わせください。

問合せ先：組織・広報担当

柴崎浩平 shibazaki.k@shse.u-hyogo.ac.jp

学生会員とは？

「大学および大学院またはこれに準ずる学校に在籍する学生とし、恒常的な職業を持つ大学院社会人学生は学生会員に含まない。ただし大学院修了後、常勤的な職業に就いていない者については、本人からの申請に基づき常任理事会で審議し、承認を得れば学生会員の資格を適用することができるものとする。なお本項でいう恒常的職業には3年以上の任期付きポストを含むものとする。」

地域農林経済学会会員種別に関する規程細則第1条より抜粋

編集後記 Editor's Postscript

会員相互のよりよいコミュニケーションにむけて、皆様からのご意見やご要望、ご提案をお待ちしております。組織・広報担当常任理事（柴崎浩平 shibazaki.k@shse.u-hyogo.ac.jp または長命 洋佑 hiroshimauniv.onmicrosoft.com）まで、積極的にお知らせ下さい。（柴崎）

地域農林経済学会ニューズレター 第33号

発行日：2023年3月25日

ARAFE Newsletter No.34

Mar.25 2023

発行者：地域農林経済学会常任理事会（組織・広報担当）
